

本校の社会の入試で必ず出題される「並べかえ問題」です。平安時代の流れをおおまかにつかめていれば、正解できます。

アの唐の滅亡は、遣唐使と関係があります。菅原道真は遣唐使の廃止を提案しました。その主な理由は、唐が衰退していることと、航海が危険であることでした。そして実際に遣唐使が廃止されて間もなく、唐は滅亡しました。唐の滅亡の年代（907年）を知っている人はおそらくいないでしょうし、覚える必要もありません。唐が滅んだ時期を、遣唐使が廃止された「平安時代の半ば」と結びつけられるかどうかポイントです。**イ**の白河天皇は、天皇の地位を子にゆずり、上皇として院政を開始しました。平安時代の半ばに摂関政治を行っていた藤原氏にかわって、上皇が政治の中心となるので、これは「平安時代の後期」のできごととわかります。**ウ**の坂上田村麻呂は、桓武天皇によって征夷大將軍に任命されました。桓武天皇は平安京に都を移した天皇なので、これは「平安時代の前期」とわかります。したがって、正解は「**ウ→ア→イ**」となります。

このように、「並べかえ問題」を解くときは、それぞれのできごとの年代を思い起こすのではなく、それぞれのできごとが起きた背景を考えることが重要です。そのために、1つひとつのできごとが前後のできごととどのような関係があるのか、つまり歴史の流れを意識して理解することを日頃から心がけて下さい。

[平成 24 年度出題]

正解 **ウ→ア→イ**